

気になる子の理解と支援

～見方を変える・先生が変わる・子どもが変わる～

【ことばの理解】

- 初めて聞くことばの意味や文脈から類推することができない。
- 抽象的な表現や比喩は分からない。
など

【聞き取り】

- 先生の声など必要な声だけを聞き取ることが難しい。
- ことばだけの指示は記憶に残りづらく忘れてしまう。
など



【いろいろな感覚】

- 皮膚の感覚が過敏で長袖を着たがらない。
- 音に過敏で非常ベルやトイレの水洗の音などを怖がる。
- 口の中の違和感から偏食がある。
など

【社会性】

- 相手の感情や表情を理解することが難しく、相手の気分を害する言動をとってしまう。
- 周りの人への関心が薄かったり、逆に一方的なかかわり方をしてしまう。
など

話すことは流暢なのに、本を読ませると1文字1文字たどたどしく読む様子から「ふざけている」とか「やる気がない」と感じたことはありませんか。友だちと仲良くできずによく喧嘩になったり、授業中に席を頻繁に離れたりするため、ついつい叱責することが多くなったりしていませんか。

わたしたちが「気になる子どもたち」に接するとき、どうしても目の前で起きている「困った」行動に目が向きがちです。そのため、行動を直そうとしたり、抑制しようとし、「気になる子ども」に対して、注意や叱責といった対応が多くなります。

しかし、その場は収まっても、子どもは再び同じ言動をとることが多く、子どものこうした言動を少なくしたり望ましい行動に変えていくためには、「なぜこの言動をとるのか。」「その時どんな気持ち（考え）だったのか。」といった、子どもの思いや考え方の特徴、困り感に先生方が思いを寄せることが大切です。

群馬県教育委員会

平成21年3月

指示通りにできなかつたり、忘れ物が多いAくん

Aくんは、先生に指示されても他の子どもたちと同じように行動することができず、いつも友だちの動きを見て行動します。また、宿題や翌日の持ち物などを忘れることが多く、先生に注意されたり友だちにからかわれたりします。

こんなふうにAくんを捉えていることはありませんか？

- 何度同じことを言っても分からない。
- 注意力が足りない。
- 親が協力的ではない。

Aくんの「考え方の特徴」や「困り感」



Aくんの「考え方の特徴」や「困り感」から「行動の意味」を考え、支援の方法を見出しましょう。

Aくんの行動の意味



①先生の話し声も、周囲の雑音も、同じレベルで聞こえてしまうため、特定の声だけを聞き取ることに困難があります。とくに集団の中や音が反響したりする場所では、その困難さが大きくなります。

②耳から入った情報を記憶しておくことが苦手で、すぐに話の内容を忘れてしまいます。そのために指示の内容がわからなくなったり、忘れ物が多くなってしまいます。

③言葉の意味や指示の内容が理解しにくいいため、何度も同じことを繰り返し聞きに行ったりします。また、先生から注意されないようにするため、分かったふりをして友だちの行動を見ながら動く習慣が身に付いています。

支援の手立て



・できるだけAくんの近く、それも正面で話しかけるようにしましょう。

・周囲が騒がしければ他の子にとっても聞き取りづらくなります。人の話にしっかり耳を傾ける学級づくりを心がけましょう。

・指示はできるだけ短い表現にしましょう。

・黒板に板書して目で見て捉えさせるようにしましょう。

・連絡ノートその他、その場で必要なことは付箋紙に書いて机に貼って示す等の工夫もしましょう。

・高学年ではメモも有効です。

・問いかけには分かりやすい言葉で置き換えたり、言葉の意味を説明したりしましょう。

・分からないことは恥ずかしいことではないことを伝え、友達や先生に安心して聞ける環境をつくりましょう。

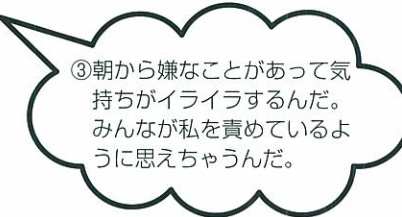
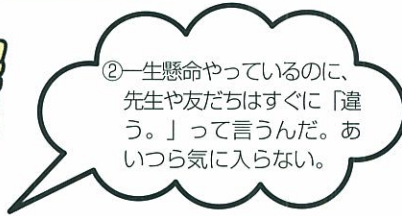
すぐに怒り出してケンカになることが多いBさん

Bさんは、ジャンケンやゲームに負けると大きな声で叫んだり、物にあたったりします。また、気持ちが不安定になりやすく、そんなときに先生や友だちから注意をされると、些細なことでも言い争いやケンカになってしまいます。

こんなふうにBさんを捉えていることはありませんか？

- わがまま。 我慢が足りない。 家庭でのしつけができていない。
- トラブルばかり起こす困った子。

Bさんの「考え方の特徴」や「困り感」



そうか、今、Bさんは
気持ちがイライラ
しているんだ。

Bさんの「考え方の特徴」や「困り感」から「行動の意味」を考え、 支援の方法を見出しましょう。

Bさんの行動の意味



①ジャンケンやゲームなど、ルールのある遊びでは、ルールが理解できないために、自分の思いを通そうとしたり、勝ちにこだわってかんしゃくを起こし、友だちとトラブルになることがあります。

②相手の表情や声の口調から気持ちを読むことが苦手だったり、ことばの受け取りが字義どおりで、冗談と受け取れないため、些細なことが気に障ってトラブルになってしまいます。

③叱責されたり、いやなことがあると気持ちの立て直しに時間がかかったり、尾を引きやすかったりする傾向があります。また、過去の失敗体験の積み重ねから物事を否定的に捉えやすく、感情のコントロールが苦手です。

支援の手立て



・ゲームや遊びの前に、絵や図を使ってルールの理解がしやすくなる工夫をしましょう。
・ゲームや遊びを始める前に、「ゲームは勝ったり負けたりする」ことを確認し、「勝った時」「負けた時」の予測や約束をしてみましょう。

・相手の言動を分かりやすく伝えましょう。
・感情が高まり、かんしゃくを起こした時は、場所を移して落ち着く環境を整えましょう。
・否定的な表現はひかえ、学級全体でお互いを認め合う雰囲気作りを心がけましょう。

・他児との比較でなく、その子の中で良くできたことを十分に認めるなど、日頃から子どもを肯定的に受け止めましょう。八つほめて二つ注意するくらいが自己肯定感を育ちやすくします。
・安定して過ごせるよう、学級での生活リズムを整えたり、安心できる場所を準備しましょう。

授業中に離席してしまうことが多いCくん

Cくんは、授業中、頻りに席を離れてしまいます。そのたびに担任の先生から注意され、席に戻されるのですが、なかなか落ち着いて座っていることができません。

こんなふうにCくんを捉えていることはありませんか？

- 我慢が足りない。 ○家庭でのしつけができていない。
- 授業も中断してしまうし、他の子の迷惑になって困る。

Cくんの「考え方の特徴」や「困り感」

そうか、Cくんは
注意が散りやすいんだ。

①長い間座っていると、
身体がムズムズして、
なんだか分からないけ
ど手足がそわそわ動き
出しちゃうんだ。



②先生が見せてくれ
た虫眼鏡っておも
しろそうだから、
早く使いたいよ。

③やることなくなっちゃっ
たから、Bくんのところ
に行って来よう。

Cくんの「考え方の特徴」や「困り感」から「行動の意味」を考え、 支援の方法を見出しましょう。

Cくんの行動の意味



①動きを制限されたり、きまった姿勢を持続したりすることが苦手です。一つのことに集中するのが難しいため、気持ちがそわそわするとよそ見をしたり、手足を動かしたりとなかなか落ち着きません。

②興味がある物が目に入ったり、関心のある話題が聞こえてきたりすると、そのことが気になってしまい気がついたときには席を離れてしまいます。

③次にやることややり方の順番が分からなかったりすると、興味関心のあることに注意が移り、席を立ったり、自分のやりたいことを始めてしまいます。

支援の手立て



・一つの課題を短くし、課題が終わったら先生のところに持ってこさせるなど、課題の量の調整や動きのある活動を取り入れてみましょう。

・「いつ」「どのように」など、使う時や方法を明確にしておきましょう。
・机や本人の視野に入る場所に関係のない物を置いたり、掲示したりしないようにするなど、周囲から余計な刺激を少なくしましょう。

・今すること、次にすることを、視覚教材等を使って分かりやすく示したり、課題が終わったら自分がすることをあらかじめ決めておくなど、見通しを持たせましょう。

いろいろな学習の困難さを示す子どもたち

他の問題はできるのに繰り上げや繰り下がりのある計算になるとできなくなるDくん。
 リコーダーの穴をふさぐことが上手くできず、いつも音程の外れた音を出してしまうEさん。
 会話はすらすらできるのに、教科書の音読になるととたどしい読み方になってしまうFさん。

こんなふうにつえていることはありませんか？

- 他のことはできるのにどうしてこれだけできないの。
- ちゃんと穴の位置を確認して押えるように言ってるのに注意力が足りない。
- ふざけてるんじゃないかしら。

Dくん、Eさん、Fさんの「考え方の特徴」や「困り感」



Dくんたちの「考え方の特徴」や「困り感」から「行動の意味」を考え、支援の方法を見出しましょう。

Dくんたちの行動の意味



①短期の記憶が苦手だったり、順序立てて計算することが苦手なため、繰り上がりや繰り下がりや忘れてしまったり、計算の順序が分からなくなってしまう。

②自分が思ったように手指を動かすことに困難さがあり、指先を使った細かな作業が苦手です。とくにリコーダーのように同時に異なる指を動かすような活動では正確に穴をふさげなかったり、必要のない指を動かしてしまったりします。

③目からの情報を処理することに困難さがあるため、文字が重なったり、ゆがんだりして見えることがあります。そのため、とたどしい読み方になります。また、まとまりで読むことができないため、文の内容を理解することが難しくなります。

支援の手立て



・計算の手順表を横に置いてやり方を確認させてみましょう。
 ・プリントに繰り下がりや繰り上がりを書き込むスペースを確保したり、色分けして分かりやすくする工夫をしてみましょう。

・厳しい指導を行うと、苦手意識が強くなり、リコーダーを吹くことや音楽の時間そのものを嫌いになることがあります。ふける部分で参加するなど、リコーダーが楽しめる工夫をしましょう。
 ・手指を使った遊びを通じて、自分の指の動きの感覚をつかませましょう。

・教科書では、必要な行以外は隠して情報を制限したり、文節ごとに区切ったり、文字を指で追って読んだりなど、本人が読みやすい方法や環境を整えましょう。
 ・プリントの文字は大きくしたり、行間を広く取るのも効果的です。

授業中、机に伏したり、活動に参加したらないGさん

Gさんは、授業中、教科書やノートを開こうとしなかったり、机に伏したりすることがよくあります。また、体育の時間や休み時間など、身体を動かす活動では自分から参加しようとしません。

こんなふうにGさんを捉えていることはありませんか？

- やる気がない。 ○病気で具合が悪いのかな。
- 意欲はないけど、クラスの迷惑にはなっていないからそのままでも……。

Gさんの「考え方の特徴」や「困り感」



Gさんの「考え方の特徴」や「困り感」から「行動の意味」を考え、支援の方法を見出しましょう。

Gさんの行動の意味



①読み書きや計算の障害のため、通常の学習のすすめ方についていけず、学習内容が理解できません。そのため、学習に対する意欲が低下し、授業に集中できなかつたり、課題に取り組むことをいやがったりします。

②協調運動障害等のため、細かい動きから大きな動きまで、身体を動かすこと全体に不器用さがあります。身体のイメージがもちづらく、自分でコントロールすることが困難なため、苦手意識が強くなり、身体を動かす意欲の低下にもつながります。

③失敗体験の積み重ねから、「できない」「はずかしい」という否定的な考え方をもちやすく、友だちと一緒に遊んだりすることも少なくなりがちです。そのため、経験も少なくなり、社会性の発達にも大きく影響することが心配されます。

支援の手立て



・一度に提示する課題の量を少なくし、わかりやすい内容から徐々にレベルを上げるなどして、「できた」経験を増やしましょう。

・動きを視覚的にとらえさせたり(手本)、言葉で動きをイメージさせたり、実際に子どもの身体に触れて動かしてみよう。
・はじめから細かな作業をさせるのではなく、ゆっくりと大きな動きで身体を動かすことの楽しさを感じ取らせましょう。

・易しい課題から少しずつ難しい課題へ段階的に進め、「できた」「できそうだ」といった自己肯定感を育てましょう。
・肯定的な言葉かけを心がけ、どんな些細なことでも認めるかわかりを大切にしましょう。

音や感触に敏感な子どもたち

水洗の音が怖くて学校のトイレにはいることができないHくん。

プールのシャワーがきらいでプールの時間をいやがるIくん。

口の中に違和感があり、偏食の多いJくん。

こんなふうにHくんたちを捉えていることはありませんか？

- 神経質であつかいにくい。 ○我慢ができない。 ○わがままな子。

Hくんたちの「考え方の特徴」や「困り感」



Hくんたちの「考え方の特徴」や「困り感」から「行動の意味」を考え、支援の方法を見出しましょう。

Hくんたちの行動の意味



①音に対する過敏さがあり、大きな音、予測できない音、特定の音をいやがるため、突然動けなくなったり、パニックになったりすることがあります。

②皮膚の感覚が過敏なため、シャワーの水が皮膚にあたることを極端に痛く感じたり、長袖を着ることをいやがったりします。

③口の中に違和感があり、特定の触感の食べ物を嫌ったり、逆に特定の触感のものしか食べられなかったりすることがあります。また、臭いや味覚に敏感であるため、給食などで偏食がみられます。

支援の手立て



・避難訓練の警報や運動会のピストルの音など、音が鳴ることや時間を事前に知らせておいて耳をふさぐなどの予防策をとらせましょう。

・無理にその場にとどめたりしないこと。

・先生がそばにいるなど、安心できる環境を整えましょう。

・無理にシャワーを浴びさせず、ゆっくりと水をかけるなど、子どもが受け入れられる方法を工夫しましょう。

・本人や保護者と相談しながら、気にならない材質の洋服を着るようにすることも有効です。

・食材そのものの好き嫌いから食べることができないのではないということを周囲にも説明して、学級の中での理解を深めましょう。

・保護者や栄養士さんとも相談しながら、違和感を感じにくい調理法や食材の使用など、給食の楽しさが味わえる工夫をしましょう。

…学級全体で、学校全体で支援…

○子どもの行動の意味を考える

その子がとった行動の意味が理解しにくいと、私たちは「問題行動」と決めつけてしまいがちです。しかし、子どもにしてみると「問題解決行動」であることが多いのです。

ですから、その行動をやめさせることだけを強いるより、新しい解決方法を提案し、身につけさせる方が有効ですし、本人にとっても負担が少なくてすみます。

子どもの行動を「よい」「悪い」で評価せず、まずはその行動の意味に思いを巡らせ、理解することが大切です。その上で、次に同じ場面が起きたときにどう対処したらよいかを、子どもと一緒に考え、本人に決めさせましょう。自分で選んだことには取り組みやすいですし、最後までがんばれることも多いものです。

○共感する

発達障害の子どもの場合、一方的に指示されたり、説得しようとする、その人の言っていることが正論であっても、意固地になり、気持ちが興奮してパニックになることもあります。このタイプの子どもたちは、人から認めてもらったという経験が少ないため、ゆがんだ捉え方をする傾向があります。

子どもは、人から認められることの喜びを通して、認めてくれる他者の思いを理解し、その期待に応えようとしています。それが共感です。まずは今そこにいる子どもを受け止めて認めることから始めましょう。信頼関係の構築が何より大切です。

○学校全体で取り組む

気になる子や障害のある子どもにとって分かりやすい授業や過ごしやすい空間は、他の子どもたちにとっても分かりやすい授業であり、過ごしやすい空間です。特別な指導を目指すより、お互いを思いやる気持ち、助け合う姿が日常的に見られるような、誰にとっても優しい環境づくりとしての学級経営を心がけましょう。

また、小学校では授業をはじめ担任の先生が学級の子どもにかかわることがほとんどです。そのため、担任の先生が一人で負担を抱えがちですが、「気になる子ども」を理解するためには、複数の目で見ることが大切です。校内の支援体制を整え、学校全体で「気になる子どもたち」はもとより、担任の先生を支援するシステム作りを進めましょう。

参考となる情報を得るには

○発達障害教育情報センター(国立特別支援教育総合研究所内)

<http://icedd.nise.go.jp/blog/>

○群馬県特別支援教育センター

<http://www.center.gsn.ed.jp/kodomo/tokusyusen.htm>

困ったことがあったら、いつでも相談を！

群馬県総合教育センター〈子ども教育支援センター〉 ☎0270-26-9200

その他…各市町村の障害福祉関係課、特別支援学校の特別支援教育コーディネーター、教育事務所の特別支援教育専門相談員、発達障害者支援センター等で相談も行っています。